

届出がされないと、適正な医療費助成額が算定できなかつたり、助成時期が遅れたりする場合があります。

変更届が必要な医療制度等
乳幼児医療・重度心身障害者医療・ひとり親家庭等医療・老人保健医療・老人医療

国保から社会保険に変更した場合、国保からの脱退の手続きが必要で（社会保険からの連絡はありません）。※届出がされないと、変更になった方も含めて国保税を計算してしまいます。

3月は退職（任意継続健康保険の期限含む）、4月は就職や転職の月です。健康保険に変更がある場合は変更届の必要がないか確認をしてください。

町では、「伊奈町に住民登録または外国人登録をし、1年以上居住している人」等の要件を満たす人を対象に、人間ドック検診の補助金交付制度を実施してきましたが、4月1日からは対象が町国民健康保険加入者のみとなります。



国保のコーナー
人間ドック検診補助金交付制度の対象がかわります
● 保険年金課 国民健康保険係 ☎ 2 1 6 2

お忘れないうちに? 交通災害共済加入手続き

平成2年4月2日～平成11年4月1日生まれの小・中学生の方で加入を希望される場合は、会費を添えてお申し込みいただきますようお願いいたします。平成17年4月1日以降に加入した場合は、加入日の翌日から共済見舞金の対象になります。もし、4月1日から加入日までに交通事故等にあわれましても見舞金の請求ができませんのでご注意ください。加入申込みについては、ふれあい活動センター（ゆめくる）でもお預かりできますので、どうぞご利用ください。

● 住民課 ☎ 2 1 1 1

児童手当制度のご案内

児童手当は、小学校第3学年修了前の児童を養育している方に支給されます（所得制限あり）。

支給額（月額）
第1子・第2子＝5,000円、第3子以降＝10,000円（申請日の翌月分から支給）
所得限度額（15年中の所得）

扶養親族等の人数	国民年金加入者	厚生年金加入者	扶養親族等の人数	国民年金加入者	厚生年金加入者
0人	301万円未満	460万円未満	4人	453万円未満	612万円未満
1人	339万円未満	498万円未満	5人	491万円未満	650万円未満
2人	377万円未満	536万円未満	6人	1人増すごとに38万円加算	1人増すごとに38万円加算
3人	415万円未満	574万円未満			

※ここでいう所得とは、年収から給与所得控除等を差し引き、さらに8万円引いた額です。

● 健康生活課 ☎ 2 1 4 4

補助金交付制度

町国民健康保険加入者で、次のすべての条件に該当する人が、補助金の交付を受けることができます。

- ①伊奈町に住民登録または外国人登録をし、1年以上居住している人
- ②30歳以上の人
- ③町税を滞納していない人
- ※申し込み前に、保険年金課で確認することもできます。
- 補助金額** 指定人間ドック検診または指定医療機関独自の人間ドック検診のいずれかで、1年度1回2万円を限度とします。
- 申請手続** 予約金の領収証と印鑑（朱肉使用のもの）を持参のうえ、保険年金課で申請手続きをしてください。申請書受付後に「対象者の条件」を確認したうえで「受給者証」を発行しますので、検診日に医療機関の窓口を受給者証を提出してください。

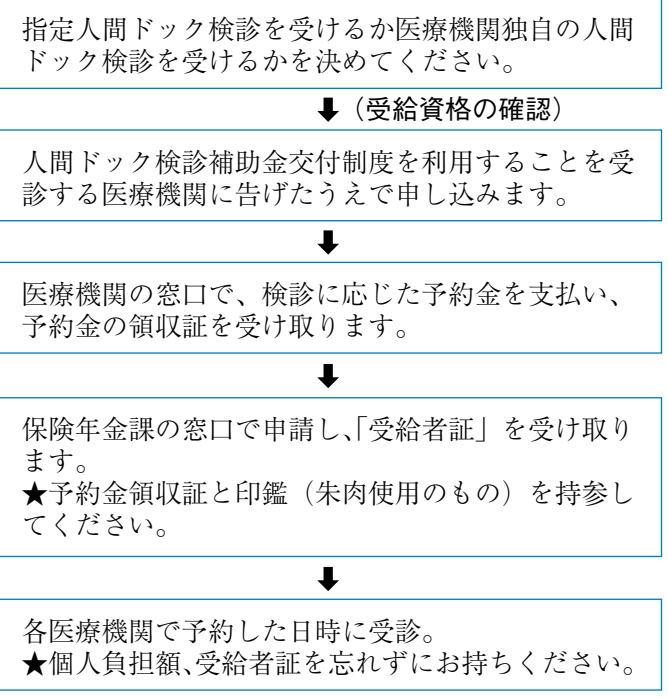
検診の種類

- 指定人間ドック検診**
- 検査項目** ①問診、打聴診、腹部触診、身体計測 ②検尿③検便④血液検査⑤胃検査（基本は胃透視）⑥胸部エックス線検査⑦心電図⑧総合判定
- 検診料金** 31,500円（消費税込み）※町から2万円の補助金が出ますので、自己負担金は1万1,500円となります。
- 検診日時** 各医療機関で決めて行います。

- 医療機関独自の人間ドック検診**
- 検査項目・検診料金・検診日時**は医療機関にお問い合わせください。
- ※補助金2万円を差し引いた金額が自己負担金となります。

検診の申込方法 別表の検診実施医療機関に直接申し込みをしてください。申し込みの際は「補助金交付制度」を利用することを、忘れずに申し出てください。※申し込み時に検診の種類に応じた予約金が必要です。

人間ドック検診の受診方法



人間ドック検診実施医療機関一覧

(順不同)

医療機関名	所在地	電話番号
希望病院	小室3170	723-0855
今成医院	小室2469-2	723-8280
内田クリニック	小針内宿283	728-9296
伊奈病院	小室9419	721-3692
金崎内科医院	小針新宿568-3	728-8550
伊奈中央病院	寿4-43	721-3022
世沢整形外科	小室2216-1	723-9191

福川市・北本市の実施医療機関については、保険年金課国民健康保険係 ☎ 2 1 6 2 にお問い合わせください。

アンドリューの "What's on"

No.11 Are the people in Britain ethnically diverse? (イギリスは多民族国家であるか?)

"We celebrate the diversity in our country, get strength from the cultures and the races that go to make up Britain today." Prime Minister Tony Blair, 2 October 2001

People from all cultures and ethnicities can be found in every corner of Britain and each person in his or her own way has contributed to make Britain the place it is today.

Britain is and has always been a mixed race society. Early in our history we were invaded by Roman, Saxon, Viking and Norman armies and later Africans were brought to Britain by force in the seventeenth and eighteenth centuries as slaves or servants. Over the years, thousands of people have arrived in Britain as refugees from France, Ireland, Russia, and other countries, escaping from persecution or famine in their own countries.

There are British people whose parents first came to Britain in the 1950s and 1960s from the Caribbean, India, Pakistan, Hong Kong and other places. Their homes are mainly in the big English cities like London, Birmingham and Manchester. About 8% of the population of Britain today are people from other cultures and ethnicities. That is 4.6 million people. 300 different languages are spoken in London every day.

This outline should highlight the differences between the Japanese and British societies. Culturally and ethnically Japan is not as diversified as Britain. Whether that is a good or bad situation is questionable. Britain has a number of problems resulting from ethnic tensions. Some people in Britain argue for tighter immigration restrictions. However the majority of Britain's our proud of their multi-cultural society.

“我々は母国の多様性を喜ぶ。また我々は今日のイギリスを築き上げている多種の文化と民族から多大なエネルギーを得ている。”
イギリス首相 トニー・ブレア 2001年10月2日

イギリスのいたるところで様々な文化や民族を見かけることができますし、それぞれの民族性は今日のイギリスを築き上げるうえで多大な貢献をしました。

イギリスは今も、そして今までも常に多民族社会という顔を持っています。初期のイギリス史において、イギリスはローマ人、サクソン人、バイキング、ノルマン軍隊からの侵略を受け、その後アフリカ人が奴隷や召使として17、18世紀に強制的に連れられて来ました。何年もの間、何千という人々がフランス、アイルランド、ロシアなどの国々から、迫害や飢饉から逃れるため難民としてイギリスにやってきました。

両親が1950年、60年代にカリブ、インド、パキスタン、香港などの国々からイギリスに渡ってきたという歴史を持つイギリス人もいます。そのような人たちは、主にイギリスの大都市である、ロンドン、バーミンガム、マンチェスターなどに住居を構えています。今日のイギリス人口の約8パーセント、460万人を他民族が占め、ロンドンでは毎日300もの異なる言語が話されています。

このような背景は日本社会とイギリス社会の違いを強調しています。日本は文化的、民族的な側面でイギリスほど多様ではありません。これが良いのか、悪いのかは、議論の余地がある問題です。イギリスは民族間の緊張から起こる多くの問題を抱えています。より厳重な入国規制を行うべきであると主張する人たちもいます。しかし、イギリス人の大多数は母国の多民族社会を誇りにしているのです。

※アンドリューへのお問い合わせは、教育委員会学校教育課 ☎ 2 5 3 2 へ